

2021年8月、小諸市複合型中心拠点誘導施設「こもテラス」がオープン。それに並行して始まったのが、新たな公共交通「スマートカート egg」の試験運行です。小諸駅から始まり、北国街道沿いに周遊する egg は、単なる公共交通だけではなく、「新たな出会いや交流を促進し、地元の魅力を再発見させてくれるモノ」としても活躍しました。(試験運行は終了)

「小諸駅のまど」オーナー
ひろみ
金山 裕美さん



スマートカート egg の試験運行は、11/27をもって終了しています。今後の予定については、詳細内容が決まり次第、ご案内いたします。

使い方は、人それぞれ

小諸駅「みどりの窓口」だった場所、2020年10月から、電源カフェを開いています。コロナ禍の真只中で営業をしましたが、いつの間にかスマートカート egg の拠点のようになっていました(笑)。

新しい乗り物で、最初は乗りづらい雰囲気があったんです。それでも、お客さんたちに「楽しいですよ! 便利ですよ!」と声をかけているうちに、口コミで広がっていききました。

小諸の方は、純粋に乗り物として楽しんだり、駅から市役所・病院・コンビニに行くために利用したりする方が多かったのですが、いざ乗ってみると、「初めて知るお店」や「まちなみの変化」に出

会い、驚いていました。新型コロナウイルス新規陽性者の発生が落ちると、市外や県外の方々もたくさん乗ってくれるようになりました。電車やバスで来られた方には、気軽に乘れて小諸の市街地を堪能できるので、大人気でしたね。

「いつでも賑わう駅前」に「親が小諸に行きたい」というので付き添いで来ましたが、30・40代の方が多かったのが印象的です。その皆さんが、egg を通して、小諸の魅力を知ってくれたことも嬉しかったです。

こもテラスやツルヤさん、まちなみ広場など、まちなかに新たな目的地も増えました。「駅前が色々な目的を持ったひとたちであふれている」、そんな2022年になればいいと思います。

「こもろワクワクマップ」

開催中・開催予定のイベントや企画、街並みの見どころや新規店舗の紹介など、まちなかの楽しい情報が、一目で分かります。小諸駅前ロータリーに設置されています。



※写真は11月末。掲示内容は、随時更新されています。

「こもろまちタネ広場」

大手門の向いに、新たにできた開放的な公園。誰もが主催者・主役になれるチャレンジの場で「小諸の新しいライフスタイルが生まれる場所」となっています。



特集

蒔かれたタネ、芽吹くとき

モノ・ヒト・コトでみる、2022年の小諸

私 たちの生活のいたるところへ、新型コロナウイルスの影響が及ぶようになって、丸二年が経とうとしています。

こ の間、厳しい感染症対策やワクチンの集団接種など、これまでになく様々な事柄を経験しながらも、多くの皆さんが「小諸の未来」を見据え、それぞれの立場から色々な「タネ」を蒔いてきました。そしていま、その「タネ」の取り組みが、少しずつ成果を見せ始めています。

今 月号では、その様々な取り組みを、種まき、皆さんにお話を伺い、モノ・ヒト・コトの視点からご紹介します。



(株)カクイチ管理部
柴戸 秀太さん



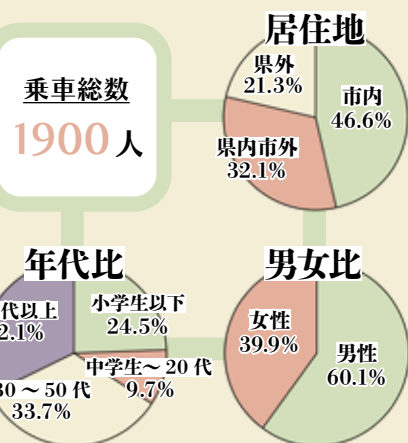
(株)カクイチは現在、「地方を元気にしたい」「ひとの動きを活性化したい」という同じ目標も持っている小諸市さんと一緒に、様々な事業に取り組んでいます。

熱意と速さに感動

他市町村とも仕事をさせていたでいていますが、小諸市の皆さんの「地域を盛り上げたい」という気持ちの強さと、そこから何かをはじめるスピードには、本当に驚かされています。

行政・市民の両方が同じ目線で一体感を持って動いているからこそ、「地域を盛り上げる新たな公共交通」としてのeggを、多くの方が積極的に利用してくれているのだと思っています。

eggは、まだまだ試行段階です。今後も市民の皆さんと一緒に、より良いものになりたいですね。



※9～11月の金・土曜日運行分を集計。

コト

-Project-

2021年、紅葉まつり期間中の小諸城址懐古園の来場者数は、**過去10年間で最高**を記録しました。これまで継続されてきた、若者や観光客をターゲットとした「**取り組みやプロジェクト**」=コトが大きな成果を生みつつあります。



こもろ観光局
企画・情報戦略部 副部長
花岡 隆太 さん

文豪・島崎藤村の詩「初恋」とVTuber「戌亥とこ」さんがコラボした楽曲は、60万回再生突破。(2021/10/19公開)
「コラボ企画を見て遊びに来ました」と、遠く京都や宮城から訪れた若者も。
TwitterなどのSNSでは、「初恋コラボ」をきっかけに、小諸を初めて訪れた皆さんの声であふれています。

「#小諸フォーエバー」で検索



©ANYCOLOR, Inc.
イラスト 花ヶ田



楽曲「初恋」
(YouTube)

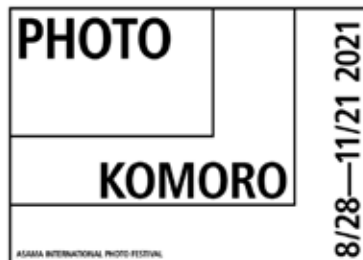


企画課 企画広報係

今回紹介した「小諸を盛り上げていくモノ・ヒト・コト」は、ほんのひと握りです。
今後も広報こもろでは、市民の皆様による「小諸を元気にするタネ」を、色々なかたちで紹介していきます。

危機感から始まった
これはヤバイ
2016年にこもろ観光局が発足し、小諸に対する市場調査を行いました。その結果、「若年層の小諸の認知度」がかなり低いことがわかり、小諸の未来に大きな危機感を持ちました。
それ以来、「若い世代の小諸の認知度を上げること」を目標に、小諸の魅力発信をしてきました。
「できること」がある別の「できること」がある
2020年、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めたとき、これまで通りの広告戦略ができなくなり、ほとんどの観光地が沈黙してしまいました。そんな状況でも、

観光局は様々なメディアを使って小諸の情報発信を続け、オンラインでの企画やイベントを開催してきました。
「もともとある魅力を新たな方法で発信」し続けてきたことで、小諸の存在感はこの2年間でより大きくなり、「安心・近場・短時間」の行楽として選ばれています。特に、若い世代が増えていることが本当に嬉しいです。
その皆さんが、小諸のまちなみやイベントも同時に満喫し、「小諸って、いいじゃん」と感じてくれています。その「いいじゃん」はSNSで拡散されて、新たなひとたちを呼び込んでいます。今年も、「Go Future (未来志向)」な取り組みを進めていきます。



8/28—11/21 2021
昨年の夏から3カ月間に渡って開催された、「**浅間国際フォトフェスティバル PHOTO KOMORO**」。
小諸の古くて新しいまちなみに、国内外の写真家たちの作品がそれぞれユニークな形で展示され、多くの来訪者呼び込みました。



「おしゃれ田舎プロジェクト」は、「若い人たちが出かけたくなるような小諸のまちなか」をつくるために、様々な面白企画を展開しています。
「あの場所、空いているよ」「あの場所は、人に貸したいらしいよ」という地元の声の拾い上げ、小諸で商売をスタートさせたいひととのつなぎ役としても活躍しています。



浅間山・高峰高原の環境保全と利活用により、高付加価値なアクティビティや食の体験を強化する「**高原ウエルネスリゾート推進プロジェクト**」も、昨年から官民連携のもとでスタートしています。



コロナ禍においても「こもろ相生坂公園（相生町）」、「こもろまちタネ広場（大手）」では、頑張るヒトを応援し、ヒトとヒトの新たなつながりをつくる催しが、開催されてきました。
いま、たくさんの思いが実現しています。

「朝」を分かち合う
ずっとやりたいと思っていた「朝市のようなマルシェ」を、仲間たちと始めました。
「朝の環」は、休日の朝に「おはよう」と言い合いながら、小諸や近隣のおいしいものを生産者から直接買って食べられる場所として、10月から毎月第1土曜日の朝に開催してきました。(※)
これからは朝の寒さが厳しくなりますので、もう少し温かい時間帯に、たき火を囲んでゆっくり過ごせるような別のイベントを企画しているところです。
宝物は足元に…
先日、これまで市外のりんごを買って食べていた方が、「遠出できないから、小諸のりんごを食べ



まちタネ広場
イベント情報は、こちらで
随時更新中。

てみたら、すごいおいしいのね！」と話してくれました(笑)。コロナ禍で遠くへ出かけられない状況が続いたことで、多くのひとが地元へ目を向けてくれるようになりました。
感染症対策で延期してしまったこともあり、「まちタネ広場」には、催しを楽しみにしてくれていた多くの方が遊びに来ています。地元のおいしいもの、農家やお店を知ってもらい、明るい顔で楽しい時間を過ごしてもらいたいです。

※「朝の環」は、1～3月はお休み。4月から毎月、第1土曜日に開催予定。

ヒト

-Relationships-



あさかわ
「朝の環」主催
すけがわ
鮭川 理恵 さん

挑戦するひとを応援
新型コロナウイルスによる経済的影響を一番はじめに、一番大きく受けたのが飲食店でした。
商工会議所は、「アンブレラスカイこもろ」で賑わいが生まれていた相生坂公園で、飲食店がテイクアウトで直接お客さんとなることができるとして「小諸FOODSTAGE」を毎週開催してきました。他にも、フードデリバリーサービス「こもろいっつ。」を実施し、飲食店支援に取り組んできました。
そんななか、この苦境を乗り切ろうと新たなことに挑戦する飲食店や事業者が増えはじめ、その結果、ひとの流れが各店舗へと戻っていているように思います。

支援を次の段階へ
新規陽性者が減り、落ち着いてきているように思われるコロナ禍ですが、事業者にとって、厳しい状況は変わりません。
今後は、各事業者が自らの仕事や商品に「付加価値」をもたせてより魅力的なものにしていく、本質的な努力が必要です。
2022年、小諸商工会議所は、飲食に限らず、幅広い業種のひとたちを支えながら、皆さんがしっかりと自立していけるように一緒に汗をかいていきます。



200円割引券付き
の情報紙を発行中。
(1/31まで利用可能)

小諸商工会議所 副会頭
塩川 秀忠 さん